

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県大崎市立鹿島台小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒989-4103

宮城県大崎市鹿島台平渡字上戸1

E-mail osaki_kashimadai@educ.osaki.miyagi.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 272名 女子 254名 合計 526名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「鹿島台の宝 シナイモツゴ」を活動テーマとして、ESDをシナイモツゴを守り育てていくための活動と捉え、ESDの実践を通して宮城県や日本の環境に目を向けていく力の育成を目標とした。

具体的には、シナイモツゴを育てる里親活動を柱に、①シナイモツゴの飼育に係わる活動、②シナイモツゴの保護に係わる教育、③地域を見つめその良さを知ることに関わる学習、④絶滅危惧種の住む宮城県や日本の環境に目を向けさせることに関わる学習を行った。

① シナイモツゴの飼育に係わる活動

「シナイモツゴ郷の会」の方をお招きし、シナイモツゴの里親活動を行っていくために学習会を実施した。児童は、シナイモツゴの生態や飼育方法等について郷の会の方から指導を受けた。

② シナイモツゴの保護に係わる教育

「シナイモツゴ郷の会」の方からシナイモツゴの保護活動や飼育及び絶滅危惧種や天敵となる外来種の駆除などの話を、映像や具体的な資料をまじえて教えていただき、里親活動でシナイモツゴを育てることの大切さを知った。郷の会の活動は、地域の環境保全などの活動も行っていることも学んだ。郷の会の方に協力していただきシナイモツゴを育てるための専用池の池さらいを行い、回収した稚魚を鹿島台地区のため池に放流した。ため池から回収した卵を放流し飼育、観察を行った。

③ 地域を見つめその良さを知ることに関わる学習

シナイモツゴ学習会で、シナイモツゴの名前は発見地の品井沼に由来していて、宮城県の地名が付いた唯一の魚であり、天然記念物に指定されているとともに、絶滅危惧種にも指定されていることも学んだ。放流会を行ったため池の周りの様子を観察したことで、シナイモツゴが自然の中で生息していくためには環境についても考えなければいけないことに気付くきっかけとなった。児童は、シナイモツゴを守る活動の大切さを知り、里親活動に取り組む意欲を高めた。

④ 絶滅危惧種の住む宮城県や日本の環境に目を向けさせることに関わる学習

児童がシナイモツゴを守り育てるために伝えたいことについて個人ごとに課題を設定し、自主的に調べながら解決していく活動に取り組んだ。まとめたことは、次年度に保護活動に取り組む3年生に向けて発表会を行った。



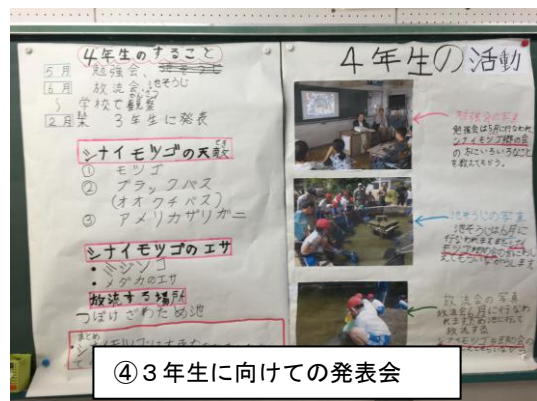
①シナイモツゴ学習会



②専用池の池さらい



③稚魚の放流会



④ 3年生に向けての発表会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

・ シナイモツゴ郷の会
<http://www.geocities.jp/shinaimotsugo284/>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

4年生の総合的な学習の時間の指導計画の中にシナイモツゴの里親活動を位置付けて保護活動に取り組むとともに、自分たちの活動を次の学年に引き継ぐことを目的とした発表会も指導計画の中に位置付けて、持続可能な取組となるように配慮した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

シナイモツゴの里親活動を4年生の指導計画（総合的な学習の時間）に位置付けている。「シナイモツゴ郷の会」と連携して、ゲストティーチャーとして学習会を実施するとともに、活動の支援をいただいている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

総合的な学習の時間の評価として、4つの観点（課題解決の能力、プレゼンテーション力、人やものとかかわる力、自己の生き方）で評価した。自分たちの身近な環境に目を向け、持続させていこうとする意欲が高まったことが成果としてあげられる。校外への発信の方法を検討していくことが今後の課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

校内で、3年生を対象とした発表会を実施。シナイモツゴの保護活動の重要性を認識するとともに、自分たちも活動を引き継いでいこうという意欲付けとなった。

校外に対しての発信は実施していない。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

「NPO法人 シナイモツゴ郷の会」の方を学校にお招きし、シナイモツゴの里親活動を行っていくための学習会、学校のシナイモツゴ専用池の池さらいを実施した。郷の会の皆さんには、学級毎にシナイモツゴの保護活動や飼育及び絶滅危惧種や天敵となる外来種の駆除などの話を、映像や具体的な資料をまじえて教えていただいた。また、鹿島台地区のため池で育てたシナイモツゴの稚魚の放流会を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

交流は特に行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

児童は、自分たちの身近な所に生息する貴重な生物の存在のことを詳しく学んだことで、地域の宝であるシナイモツゴを守り育てる活動を後輩に伝え、持続させていこうとする気持ちを強くもつようになった。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

4月～3月 シナイモツゴの飼育，観察
5月 シナイモツゴ学習会
6月 シナイモツゴ専用池の池さらい
シナイモツゴ放流会
シナイモツゴの卵の専用池への放流会
7月～12月 児童各自の課題設定，課題解決に向けた調べ学習
1月 シナイモツゴ発表会に向けての準備
2月 3年生へのシナイモツゴ発表会